発行：国立大学法人岡山大学

岡山大学 J-PEAKS MONTHLY DIGEST

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」
（実施主体：日本学術振興会）に関連する社会変革の取組を月刊でお知らせ

VOL. 26
2026.5

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

TOPICS 1

2026年度前期より事務職員にも支援を開始！ 岡山大学「大学院修学支援制度」で学業と通常業務の両立を支え、個々の専門性を活かした新たなキャリア実現を目指す

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業では「職員の高度化」を進めています。今回は、事務職員では初となる岡山大学「大学院修学支援制度」の認定者となった事務職員の方々についてご紹介します。

【博士課程】
企画部
国際企画課

仁井 勇佑
主任専門職員

国際系の専門職員として、文部科学省受託事業、国際交流協定、外国人客員研究員のビザ・宿舎関連の業務を担当。
大学院では、留学生の満足度決定要因や渡日前後のギャップをテーマに、より良い留学生受入方策を研究中。

【博士課程】
研究・イノベーション
共創管理統括部
産学連携課

舩倉 隆央
専門員

産学官連携本部の副本部長として、産学連携・地域連携・ベンチャー支援などを担当。
主に地域連携プロジェクトにおけるリーダー・マネージャーを担い、地域ぐるみでの連繋体制構築を推進。
最近の趣味は放課後農作業。

【修士課程】
研究・イノベーション
共創管理統括部
研究協力課

松本 尊道
主査

チーム共用タスクフォース・コアファシリティ部門副部門長として、研究基盤（コアファシリティ）に関する企画・立案等に従事。岡山大学研究開発マネジメント人材認定。大学院では組織経営専攻で大学経営をテーマに研究活動中。

授業や研究活動がある日のスケジュール

08:30	出勤、メールチェック、資料チェック
10:30	講義（グローバルシチズンシップ教育論）
12:45	昼食
13:30	報告書作成、他大学とのイベント企画・調整
15:30	文部科学省受託事業関係者打合せ
18:00	帰宅
21:00	先行文献研究、論文執筆
23:00	就寝

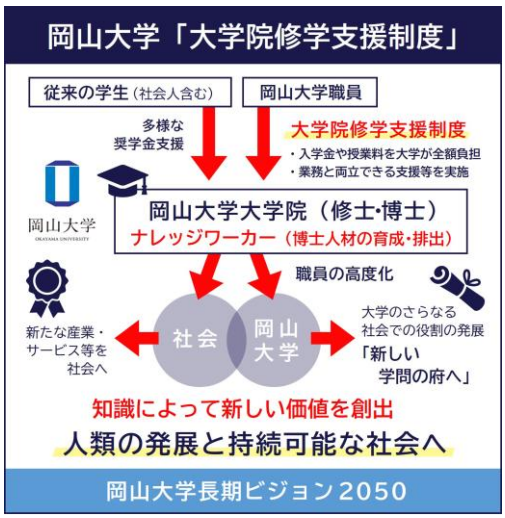
07:30	研究テーマに関連する本・論文を流し読み（朝食を食べながら）
08:30	息子を小学校まで見送った後に出勤・メールチェック
10:00	産学官連携本部内の定例ミーティング
12:00	昼休み（気力があれば図書館で先行研究調べ）
13:00	産学連携、地域連携に係る企業、自治体、支援機関との打合せ（一日平均2～3件） 打合せの合間にチーム内で新たな企画作りなど
18:00	講義、ゼミ活動など

8:30	始業　メールチェック、返信 1日の業務確認など
9:00	研究基盤に関するアイデア検討、資料作成
10:00	研究基盤に関する打合せ
12:00	休憩
13:00	研究基盤に関するアイデア検討、資料作成
15:00	研究基盤に関する打合せ
17:15	終業
18:00	大学院の講義に出席

専門性を活かした今後のキャリアや目指す未来像

○仁井 勇佑 主任専門職員

同僚と家族の温かいご支援とご協力のお陰で、大学院との両立が可能となっています。不在時の対応など、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。フルタイムで働きながら、並行して研究することは容易ではなく、強い意志と目的意識が必要と感じています。まとまった時間を確保するのが難しい時でも、隙間時間や通勤時にテキスト読み上げ機能を使ったりして論文を読み進めています。大学院修了後も本学の国際業務に携われる強みを活かし、若手・中堅の育成と留学生の受入環境整備を通じて、本学の更なる国際化と国際共修環境の拡充に貢献し、世界に伍する大学へと導けるような人材となれるよう精進して参ります。



○舩倉 隆央 専門員

職員と院生の両立は、実務と学問を往復する刺激的な毎日です。修士課程（社会文化科学研究科）では中小企業における「カーボンフットプリント」の実施がダイナミック・ケイパビリティ向上に資することを追求しましたが、博士後期課程ではヘルスシステム統合科学研究科にて、全く異なるテーマである「Well-being」について研究を進めています。実務での「違和感」や「気づき」を研究で解明する「Work as Research」を信条とし、現場の熱量を理論へと昇華するプロセスに醍醐味を感じています。今後は地域連携の最前線で学生たちの実践を伴走支援し、加速するAI時代にあっても、誰もが主役となり貢献実感と存在意義を得られる社会システムを研究を通じて構築したいと考えています。耕作放棄地再生プロジェクトにおいて土や昆虫に触れ五感を研ぎ澄ます時間も大切に、泥臭くも軽やかに、持続可能で幸福な未来を共創していく決意です。

○松本 尊道 主査

大学職員がナレッジワーカーとして大学経営に参画することが増えつつあり、研究者の研究時間確保のためにもいわゆる「教員中心主義」からの脱却として、事務職員や技術職員が重要なポストに就くことも増えてきました。大学には経営戦略を主体的に描き、社会変革を牽引することが求められており、事務職員の役割や業務も増えていると感じています。特にこれまでなかった業務には経験や勘が通用しない場面もあります。そのためにも論理的な判断や、大学経営をドライブする役割・考え方の基盤が必要だと感じ、大学院に進学することにしました。また、戦略と組織は互いに影響を与え合う「車の両輪」だとすれば、両者がうまく噛み合わなければ大学としての成長ができないため、戦略だけではなく組織も重要な観点だと感じており、組織における人の関わりについても考えていく大学院生活になればと思います。進学にあたり、背中を押してくれた妻や業務の配慮等を行って頂いた上司や同僚には心より感謝します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15289.html

○那須保友学長のコメント

今回の認定を受けられた職員の皆さんがその力を十分に発揮できるよう、組織としてしっかりと支えていきます。本制度は職員の高度化を目的とした取り組みであり、「プロがプロの仕事を行う」という考えのもと、昨年度には教員から理事へ直接就任することを前提としない人事制度改革も行いました。今後は、高度な専門性とマネジメント能力を備えた職員を、理事や副理事などの経営層に登用していくことを“当たり前”にしていきたいと考えており、挑戦する教職員を全力で応援しながら、歩みを止めることなく改革を進めます。ぜひ開かれた地域中核・特色ある研究大学：岡山大学にご期待ください。

TOPICS 2 耕作放棄地を「食べられる森」へ　新見市×4大学の地域再生プロジェクトが総務省事業に採択

新見市と岡山大学をはじめとする4大学は、耕作放棄地を活用し「食べられる森」を創出する地域再生プロジェクトを推進しています。本プロジェクトは、大阪公立大学等と構築している「共生型連合体」を基盤とした大学間連携の取り組みの一つで、耕作放棄地を再生するとともに、関係人口の創出と伝統工芸の支援を目指すもので、このたび総務省の「令和7年度補正ふるさとミライカレッジモデル実証事業」に採択されました。大学の知見と地域の協働により、新たな価値創出と地域活性化を図る取組であり、地域の中核大学として、地域課題の解決と地域自然を活用した持続可能な循環型社会の構築を推進します。

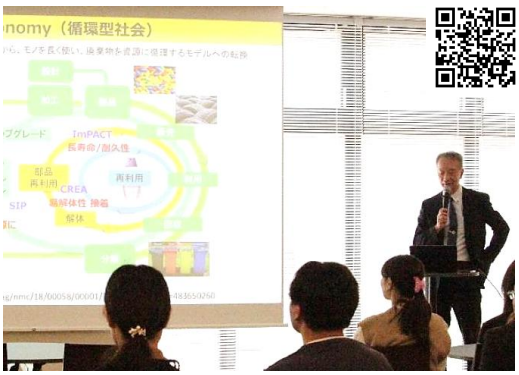
参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15325.html

TOPICS 3 研究シーズを社会実装へ　PSI起業サポートセミナー in 岡山を開催

本学が参画する中国・四国地域のスタートアップ・エコシステムPeace & Science Innovation（PSI）は、本学共創イノベーションラボ（KIBINOVE）で、「PSI起業サポートセミナー in 岡山」を開催しました。本セミナーは、大学の革新的な技術シーズをもとに、グローバルスタートアップや社会・環境課題の解決に挑むスタートアップの創出を目的に実施。当日は講演やパネルディスカッション、ワークショップを通じて、研究成果の社会実装に向けた実践的な議論が行われました。本学は今後も関係機関と連携し、大学発スタートアップの創出に向けた起業支援と人材育成を推進します。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15343.html

TOPICS 4 J-PEAKS特別セミナー「New Horizons in Advanced Materials Science」を開催～循環型社会の実現に向けた先進材料研究の最前線～



本学は、共創イノベーションラボ「KIBINOVE」において、J-PEAKS特別セミナー「New Horizons in Advanced Materials Science」を開催しました。当日は、第一線で活躍する研究者による講演を通じて、循環型社会の実現に向けた先進材料研究の最前線が紹介され、最先端の高分子材料研究と社会課題との関わりについて理解を深める有意義な機会となりました。本学は今後も、循環型社会の実現に向けた先進材料科学分野の研究交流と研究展開を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15333.html

TOPICS 5 未来医療創発研究所を「高等先鋭研究院」に認定 ～新たな研究所を加え研究・イノベーション創出を加速～

本学は、本年度より新たに設置した未来医療創発研究所を「高等先鋭研究院」に認定しました。本研究所は、臨床研究、再生医療研究および放射性医薬品研究の強みを統合し、異分野連携による先端的・融合的医療技術の創発を推進することで、健康寿命の延伸、医療費の削減および医療技術の世界展開の実現を目指す研究拠点です。今回の認定により、研究所間のさらなる連携強化を図り、研究の卓越性の向上とイノベーション創出をさらに推進します。

本学は今後も、J-PEAKSのもと研究大学としての機能強化と社会変革の実現を加速していきます。

岡山大学 未来医療創発研究所
Institute for Emerging Medical Innovation,Okayama University

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15330.html

TOPICS 6 地域と国際を見通し研究力向上に寄与できる研究開発マネジメント人材の育成と運用について島根大学との会合を開催

本学は、大阪大学とともに、文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」に関係して、島根大学を訪問。研究開発マネジメント人材の育成と運用などに関する意見交換会を開催し、各々のニーズやノウハウ、課題点などについて共有を図るとともに、若手やミドル人材の確保と育成や国際連携のあり方などについて意見交換を行いました。

今後も、関係機関との連携を深め、研究開発マネジメント人材の育成・運用の高度化、機能の拡充を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15238.html

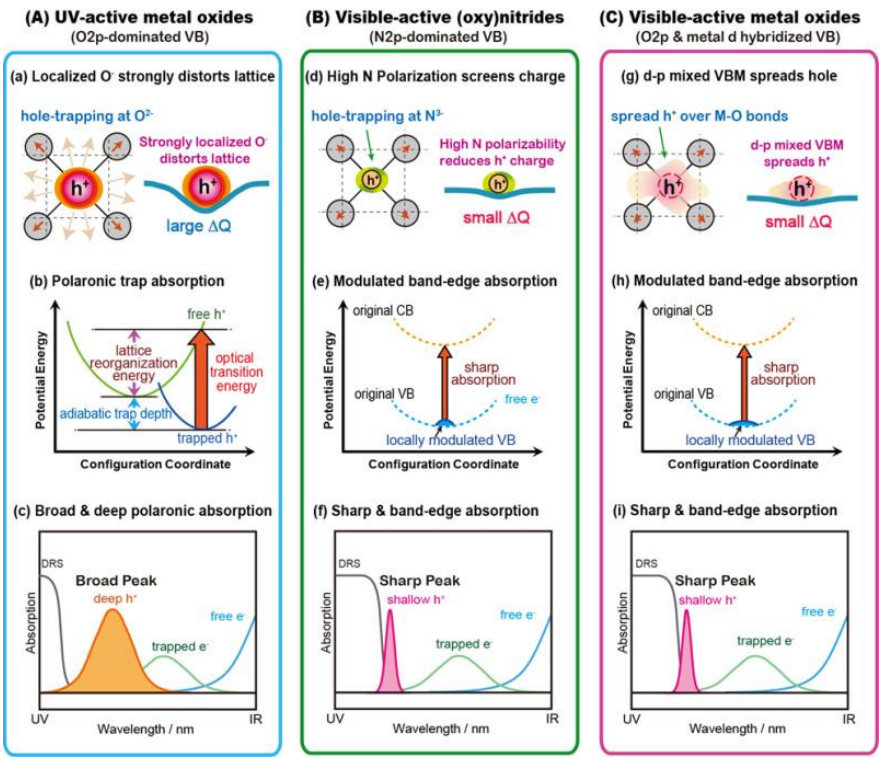
TOPICS 7 地域中核・特色ある研究大学を支える研究開発マネジメント人材の育成と運用について、熊本大学との会合を開催

本学は、大阪大学とともに熊本大学を訪問し、地域中核・特色ある研究大学を支える研究開発マネジメント人材の育成と運用に関する会合を開催しました。会合では、研究支援体制の高度化や人材育成の在り方、実務における課題などについて意見交換を行い、研究力向上に向けた連携の重要性を確認しました。今後も大学間連携を深め、研究開発マネジメント機能の強化に向けて人材の育成と運用の高度化、それを生かすための柔軟な組織・制度改革をを推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15282.html

TOPICS 8 クリーンエネルギーで注目！可視光応答型光触媒の長年の謎を解明：高活性と長寿命を両立する原理を発見

岡山大学高等先鋭研究院 異分野基礎科学研究所の山方啓教授、信州大学のJunie Jhon M. Vequizo特任助教、堂免一成特別栄誉教授らの研究グループは、可視光で動作する光触媒において長年謎であった「正孔（電子の抜けた状態）の振る舞い」を解明しました。可視光で働く光触媒では、構成元素の電子的性質により正孔が深いトラップ状態に落ちにくく、結晶欠陥があっても活性が維持される「欠陥耐性」が生まれることを明らかにしています。本研究成果は、クリーンエネルギー分野で注目される光触媒の高活性化と長寿命化を実現する明確な材料設計指針を与えます。J-PEAKS事業の取組を担う主任研究者のひとりである山方教授の活動にご期待ください。



RIIS
岡山大学
異分野基礎科学研究所

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1540.html

TOPICS 9 産業界・投資家が注目 本学研究者11人がPSI DemoDay2026に登壇

本学が参画する中国・四国地域のスタートアップ・エコシステムPeace & Science Innovation（PSI）が開催した「PSI GAPファンド DemoDay2026」に、本学研究者11人が登壇しました。

DemoDayはPSI GAPファンドの採択者が成果や今後の展望を発信し、産業界や投資家との新たな出会いを目指す場として企画され、当日は約230人が参加し、活発な意見交換が行われました。今後も、研究成果の社会実装と産学官連携を推進し、新たな価値の創出と地域課題の解決に取り組みます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15315.html

TOPICS 10 AIやHPC（High Performance Computing）を活用したい研究者・技術職員の交流の場 「AI-HPCパートナーズ」第3回ミーティングを開催

本学は、AIやHPC（High Performance Computing）、データ駆動計算に関心を持つ研究者・技術職員の交流の場である「AI-HPCパートナーズ」の第3回ミーティングを開催しました。本ミーティングでは、クラウド活用事例紹介や研究発表、ポスター発表など多様な形式で発表が行われ、異分野融合を促す活発な議論と意見交換が行われました。また、イベント後には交流会も実施され、分野横断的な対話とネットワーク形成が図られました。本学は今後もAIやHPCを活用した研究支援および分野融合の推進に取り組み、研究力の向上、イノベーション創出に貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15293.html

TOPICS 11 「LBSクラブせとうちミーティング2026春 せとうちの食を未来へ」にて那須学長が地域の食の未来について議論

「LBSクラブせとうちミーティング2026春 せとうちの食を未来へ」が岡山高島屋で開催され、那須保友学長が登壇しました。本イベントでは、瀬戸内エリアで活躍する企業や団体が集い、地域の「食」の未来や、地域ブランドを活用したビジネス創出、企業同士のコラボレーションについて議論されました。本学は今後も、地域や企業との連携を深め、地域課題の解決や新たな価値創出に取り組み、地域社会の発展とWell-beingの実現に貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15359.html

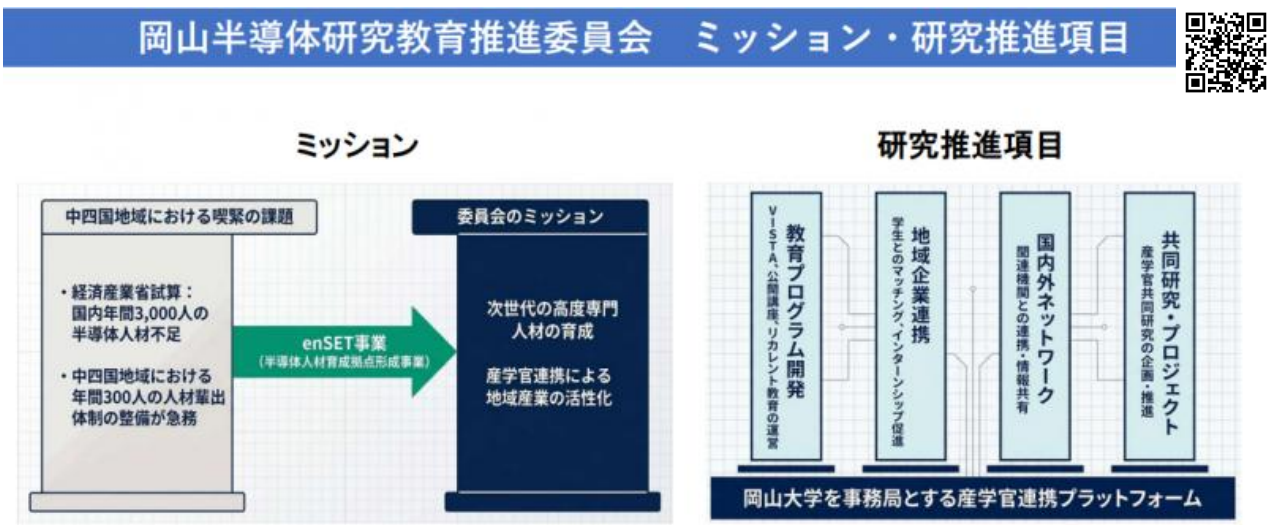
TOPICS 12 経済産業省「AKATSUKIプロジェクト」に採択 中四国の若手テック人材育成と社会実装を推進

経済産業省の令和7年度地方の若手人材発掘育成支援事業費補助金「AKATSUKIプロジェクト」において、本学が連携先として参画するGOB株式会社のプロジェクト「中四国テックゲートウェイ」が採択されました。本プロジェクトは、優れたアイデアや技術力を持つ若手人材を発掘・育成し、PMによる伴走支援を通じて社会実装につなげるものです。本学はPSIやOI-Start等と連携し、若手人材の発掘と課題解決を推進し、ナレッジワーカーの育成と価値創出に取り組みます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15346.html

TOPICS 13 岡山半導体研究教育推進委員会2026年度総会を開催 ～産学官の結束を強め、サプライチェーン全体を俯瞰する高度な人材育成を加速 ～

本学の大学院環境生命自然科学研究科が中核となって推進する岡山半導体研究教育推進委員会は、2026年度総会を開催しました。これまで岡山地域における半導体の研究と教育を推進してきた活動実績や、延べ400人を超える受講生を記録した講座の成果が報告されるとともに、サプライチェーン全体を俯瞰できる高度な人材育成を加速させる方針が示されました。本学は、地域の中核となる研究大学として、最先端の技術開発を推進し、新たな価値を創出します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15360.html

TOPICS 14 本学技術職員を「岡山大学研究開発マネジメント人材」に認定！～研究者の研究専念環境強化・教職員の高度化を推進～

本学総合技術部の中村有里技術専門職員を「岡山大学研究開発マネジメント人材」に認定しました。

研究開発マネジメント業務を主体的かつ積極的に担うことのできる人材の養成と、教職員の高度化を目的とした取組の一環で、本認定により、認定者は合計10人となりました。今後も、研究者と研究開発マネジメント人材が連携して研究開発に挑戦する環境の醸成を強化推進します。J-PEAKSを活用した大学改革や社会変革の取り組みに今後もご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15351.html

TOPICS 15 微生物の力で未来の産業をつくる分野を超えて研究者らが集う「微生物インダストリー共創コア」始動

本学と株式会社フジワラテクノアートは、微生物の力を活用した次世代産業の創出を目指す「微生物インダストリー共創コア」構想を共同で推進しています。この構想の具体化に向けて、学内説明会を開催し、分野を超えた教職員ら約90人が参加しました。微生物が担う「循環」の仕組みに着目し、発酵・醸造などの伝統的な知見と、多様な分野の知を結びつけることで、循環型ものづくり、ヘルスケア、農業など新たな産業・社会システムの創出と社会実装を見据えた産学共創モデルの構築を進めます。今後も、循環型社会の実現、新たな産業創出、次世代人材の育成に取り組みます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15361.html

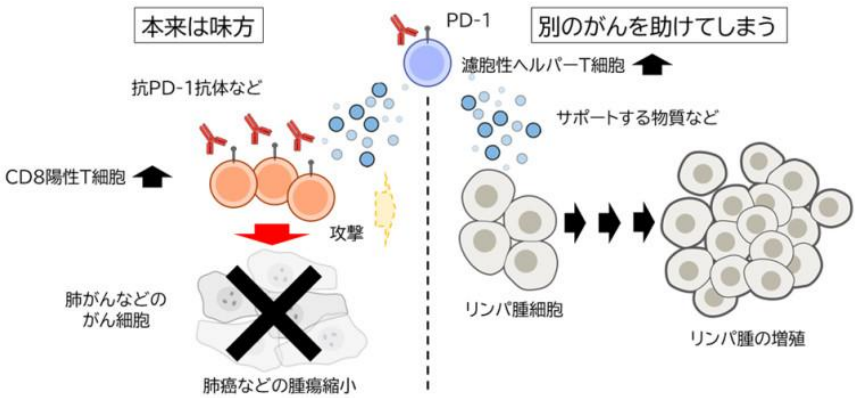
TOPICS 16 2025年度若手トップリサーチャー研究奨励賞に大越裕史准教授、三瀬広記研究准教授を選出

本学は、優れた業績を挙げた若手研究者を顕彰する「岡山大学若手トップリサーチャー研究奨励賞」において、2025年度の受賞者として大越裕史准教授と三瀬広記研究准教授を選出し、表彰式を行いました。本賞は国際的に活躍できる若手研究者の育成を目的に創設されたもので、研究成果や競争的研究費獲得状況、将来性などを評価して決定しています。本学では、J-PEAKSを活用し、若手研究者の育成・支援と研究力強化を推進していきます。大越准教授と三瀬准教授の研究活動等にご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15335.html

TOPICS 17 がん免疫療法使用中に隠れていたリンパ腫が見つかる場合がある

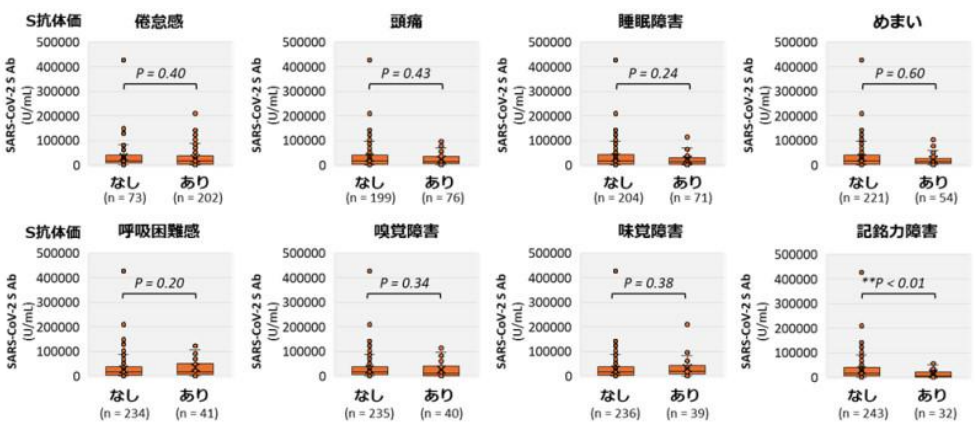
本学高等先鋭研究院 未来医療創発研究所の冨樫庸介教授（岡山大学病院呼吸器内科兼任）らの研究グループは、免疫チェックポイント阻害薬の投与中に、一部の患者でリンパ腫が見つかる可能性があること、およびその仕組みの一部を明らかにし、大規模データ解析からそのリスクがわずかに高まることを示しました。これらのリスクは過度に恐れる必要はないものの、定期的なチェックの重要性を示し、がん免疫療法のさらなる安全性向上に貢献する成果です。本学最重点研究分野の一つであるヘルスケア分野における研究力向上にご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1544.html

TOPICS 18 オミクロン期のコロナ後遺症診療におけるウイルス抗体価測定の有用性～ブレインフォグ症状やQOLの低下が抗体価と関連～

本学学術研究院医歯薬学域（医）の川口満理奈助教らの研究グループは、オミクロン株期に感染したコロナ後遺症患者において、血中のウイルス抗体価と臨床症状や背景因子との関連を解析。その結果、ブレインフォグ症状やQOLの低下が抗スパイク抗体の低値と関連し、一方で抗ヌクレオカプシド抗体は女性および感染時に重症化したケースで高値で、感染後一定の比率で減衰することが分かりました。ウイルス抗体価の変動を把握することは、コロナ感染歴や後遺症の予後を客観的に評価するうえで有用であり、今後の診断や病態把握への応用が期待されます。本成果は、高度医療を推進し、Well-being実現に貢献することが期待されます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1541.html

TOPICS 19 地域の特色ある国立大学を支え変革を推進する研究開発マネジメント人材の育成と運用について愛媛大学との会合を開催

本学は大阪大学とともに愛媛大学を訪問。研究開発マネジメント人材の育成と運用に関する会合を開催しました。

本会合は文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」の一環として実施され、本学の教職協働や複線型人事制度などについても触れつつ、研修内容の共有や今後の連携強化について議論が行われました。今後も関係機関との連携を強化し、研究開発マネジメント人材の育成と運用の高度化を推進し、中四国地域を中心にアカデミアを盛り上げ、社会変革を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15237.html

TOPICS 20 くり返す膀胱炎に、塗る乳酸菌治療～抗菌薬・ホルモン薬に依存しない新たな予防治療法の確立へ～

本学の研究グループは、反復性膀胱炎を対象に乳酸菌膣塗布剤の特定臨床研究を開始しました。これまでの研究で、乳酸菌膣坐剤の継続使用により膀胱炎再発の高い予防効果が示されており、今回はより少ない回数・短い期間で同様の効果が得られるかを検証します。膣内環境の変化が再発に関与することに着目した本研究は、抗菌薬やホルモン薬に依存しない新しい再発予防法の確立を目指しています。本成果は、患者負担の軽減と安全性の向上を図ります。本学でも今後も、高度医療を推進することでWell-being社会を実現します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1547.html

TOPICS 21 イネ種子の発育と食味に影響するマグネシウム輸送体を発見！

本学高等先鋭研究院 資源植物科学研究所の馬建鋒教授らの研究グループは、イネの種子の発育や食味に影響するマグネシウム輸送体を発見しました。マグネシウムは植物の生育に不可欠な元素であり、本成果はイネの収量や食味の向上に向けた新たな知見となり、今後の品種改良や栽培技術の開発に貢献することが期待されます。本学では今後も、J-PEAKSの取組である持続的な食料生産の実現に向けた研究開発を推進していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1538.html

TOPICS 22 大塚文男教授（医）がAMED「令和7年度新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」に採択

本学学術研究院医歯薬学域（医）の大塚文男教授が、日本医療研究開発機構（AMED）の「令和7年度新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」に採択されました。本事業は感染症に関する疫学調査や病態解明を進め、新たな診断法・治療法・予防法の開発を目指すものです。採択された研究課題では、Long COVID患者の血液検体と臨床情報を統合解析し、病態の解明とバイオマーカーの特定、診断アルゴリズムや長期化する観戦後慢性疲労の病態解析などを目指します。本学ではWell-being社会の実現に向け、最重点研究分野の研究活動を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15371.html

TOPICS 23 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課　人材政策推進室長らとの意見交換等を実施

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課の相原恵子室長らが本学を訪問し、本学がJ-PEAKSを活用し、戦略的に推進している研究開発マネジメント人材認定制度や人事制度の見直しなどについて意見交換を実施。博士人材活用に関する課題についても意見が交わされ、教員の意識変容だけでなく、経済的支援や仕組み整備が重要であるという共通認識を得ました。本学では今後もJ-PEAKSを活用し、研究開発マネジメント人材の高度化などをより一層進め、新たな研究・イノベーション創出を通じた社会変革を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15370.html

TOPICS 24 岡山大学大学院環境生命自然科学研究科の中西史美さんと大薗彩夏さんが「仁科賞」を受賞

本学大学院環境生命自然科学研究科博士後期課程の中西史美さんと大薗彩夏さんが、人物・成績ともに優秀な県内在学の理工系大学院修了予定者に贈られる「仁科賞」を受賞しました。両名のこれまでの研究活動と成果が高く評価され、本賞を受賞しました。本学では大学院博士課程（後期課程）に在籍する学生を「研究者」として位置付けており、J-PEAKSを活用し、若手研究者支援を充実させています。今後とも、本学の若手研究者の活動にご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id805.html

TOPICS 25 SPring-8において地域中核・特色ある研究大学の取り組み「中四国・播磨HeReNet」の回収（フェーズ1）を実施

本学は「中四国・播磨ヘリウムリサイクル事業ネットワーク（中四国・播磨HeReNet）」の連携機関である大型放射光施設SPring-8（兵庫県佐用町）を訪問。非弾性・核共鳴散乱ビームライン（BL35XU）からヘリウムガスの回収（フェーズ1）を実施しました。本取り組みは、限りある資源であるヘリウムの有効利用・安定供給を目指すものであり、経済安全保障にも関係する我が国の研究基盤の強化に資するものです。本学は今後も、開かれた地域中核・特色ある研究大学として、他機関と連携しながら取り組みを推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15373.html

TOPICS 26 JSPS主催「J-PEAKS勉強会」で岡山大学の技術職員の組織と人材に関する先導的な取組を紹介

日本学術振興会（JSPS）主催の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）勉強会」において、本学J-PEAKSリエゾンの佐藤法仁副理事・副学長・上級URAが本学の技術職員の組織と人材の先進的な取り組みについて紹介しました。本勉強会では、研究基盤の強化推進に向け、技術職員の人事制度や研究機器共用のあり方などが取り上げられ、J-PEAKS採択大学をはじめ全国から約300人近い方が参加しました。今後も「共にできることは共に」の精神で研究大学群の形成を進め、研究力・イノベーション創出強化を推進してます。ぜひご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15385.html

TOPICS 27 岡山大学2026年度次世代研究者挑戦的研究プログラム「OU-SPRING」採択者に認定証を授与

次世代研究者挑戦的研究プログラム
Support for Pioneering Research Initiated by the Next Generation

本学は、2026年度次世代研究者挑戦的研究プログラム「OU-SPRING」採択者37人に認定証を授与しました。式後には、OU-SPRINGの同窓会であるOU-BRIDGEの運営メンバーが進行を務める交流会も開催。4人ずつのグループに分かれ、ペアを作って互いに研究内容を紹介した後、その内容を聞き手が別の認定者へ紹介する活動を通じて、研究内容を専門外の相手にも分かりやすく伝えることを意識しながら、専門分野の異なる者同士が互いの研究に触れる機会となりました。今後も、若き“研究者”らの活躍にご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15396.html

TOPICS 28 ウェアラブルカメラで地域の知恵を記録　久米南町でため池管理活動を実地調査

本学と岡山理科大学は、岡山県久米南町で、ため池管理活動の現状と地域に蓄積された知恵を把握するため、ウェアラブルカメラを用いた実地調査を行いました。現地では、管理作業手順や工夫、地域住民の経験に基づく対応などが記録され、これまで言語化されにくかった実践知の可視化を進めます。本取り組みは、本学の「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現にも資する活動です。持続的な社会の実現に向けた本学の取り組みにご期待ください。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15365.html

TOPICS 29 レンタル・リースプラットフォーム「SXプラットフォーム」を利用した研究機器を初導入！～財務マネジメント改革と統括部局の研究機器管理を強化し実現へ～

レンタル・リースプラットフォーム「SXプラットフォーム」を利用し、国内第1号として、トリプル四重極型ガスクロマトグラフ質量分析装置を導入しました。今回導入した装置は、6月4日から本格稼働し、9月初旬には利用者向けの講習会の開催も予定されています。同プラットフォームは「買う」から「借りる」への選択肢を広げ、設置費や保守費などを含めた新たな研究機器利用の仕組みです。今後も、レンタル・リース文化を醸成し、研究基盤の強化と研究機器の共用を促進し、機器の共用を通じた研究・イノベーションの創出を強化します。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15387.html

TOPICS 30 令和8年度「岡山大学研究助教認定式」を開催～若手研究者の活躍機会の創出と大学の研究力・イノベーション創出強化を推進～

令和8年度「岡山大学研究助教認定式」を開催。7名が雇用・認定されました。本制度は、本学の研究力・イノベーション創出強化とともに、若手研究者の活躍機会の創出や教員年齢構成の是正を図ることなどを目的とし、認定された研究助教は、専ら研究に従事し、本学の研究活動の核としての役割が期待されます。

式後の那須学長との会合では、今後の研究活動の具体的な点について意見交換が行われました。ぜひ研究助教らの活躍にご期待ください。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15384.html

TOPICS 31

岡山大学総合技術部「2026年度学生セミマイスター認定証授与式」を開催～技術職員らの伴走のもと、学部生から技術人材の育成をスタートさせる岡山大学独自のプログラム～

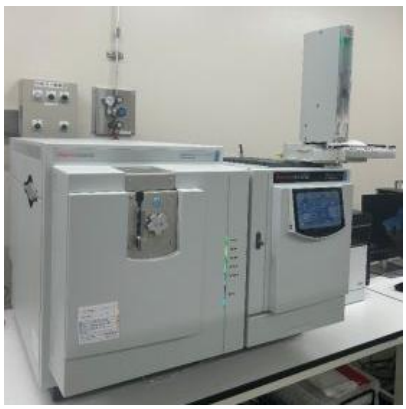
本学総合技術部は、研究機器等の操作等に習熟した学生が共同利用研究機器設備の技術サポートを行う「学生マイスター制度」の認定証授与式を開催しました。本制度は、技術職員らが伴走しながら機器分析の基本的原理の理解を深め、高度な計測技術を修得する本学独自の学習プログラムです。研究環境の充実や技術人材の育成などにおいても重要な取り組みです。なお、本制度とともに継続的な人材育成と高度化の点から、学部4年生から「学生セミマイスター訓練生」として訓練を開始し、所定の認定要件をクリアした者を「学生セミマイスター」（修士課程・博士前期課程学生）として認定し、学生セミマイスターとして認定された学生はさらに2年間の活動を経て、所定の認定要件をクリアすると「学生マイスター」（博士課程・博士後期課程学生）に認定されます。本学の研究基盤の強化、技術人材の養成等の取り組みにご期待ください。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15407.html

イチオシの研究設備

【　Thermo Fisher Scientific社
Orbitrap Exploris 30K GC-MS　】

本装置「Orbitrap Exploris 30K GC-MS」は、キャピラリーカラムによる分離を前提とした低分子化合物の分析に用いられ、特に植物が生物的ストレス下で放出する揮発性化合物の解析に活用されています。高分解能・高精度質量分析により、未知代謝物の同定や既知化合物の高精度定量を可能にします。この装置の特性を活かすことで、単なる化合物の同定にとどまらず、植物が環境変化に応答してどのように代謝を再編成しているかを多角的に解明することが可能になります。また、誘導体化によりアミノ酸、有機酸、糖などの非揮発性代謝物の分析にも対応しており、MSTFA試薬を用いたトリメチルシリル（TMS）誘導体化により、－COOH、－OH、－NH、－SHなどの官能基を有する化合物を測定できます。一般に二糖（スクロースやマルトース）程度までが分析対象となります。



本装置は多様な試料に対応可能であり、植物科学分野を中心に幅広い研究ニーズに応えます。使用は、研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル（CFPOU）」の以下のURLから詳細を閲覧可能です。

J-PEAKSの取り組みとして、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。

【管理者】
資源植物科学研究所　Galis Ivan
総合技術部　北條 優子・土屋善幸

本装置や共用利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp
参考　https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1426